



# 鶏 けいめい 鳴

2007年7月8日(第3号)

イエスの言葉

『娘よ』

聖書(マルコ福音書5章34節)

牧師 河合裕志

イエスは別に結婚していた訳ではなく子どもがいた訳ではないがここで「娘よ」と呼びかけている。ある者はここを「わが娘よ」と訳した。イエスは一体どんなつもりでこんな語りかけをしたのか。

ここで娘とあるのは「12年間も出血の止まらない女」のこと。これは慢性的な子宮からの出血といったものかもしれない。2千年の昔、この種の病気は二重に患者を苦しめた。一つは病気そのものの痛み、いま一つは「けがれた者」とみなされ、人や物にふれるとそれらをけがすのでその者との接触は避けよと差別される痛みである。誠に科学的根拠のない、無慈悲なレッテル張りである。

彼女はこの悲惨な状況から抜け出るためにもがいた。ワラにもすがらん思いで多くの医者にかかった。しかしまるで効果はない。健康保険などない時世にあって彼女は高額医療費のため全財産を使い果たすことになる。顔はすっかり青ざめ、手足は枯木のように細くなった。絶望的な思いの内に部屋に閉じこもった。

そんな折、イエスのうわさが耳に入った。いろんな病気をなおしていると言う。私の病気もいやしてもらえるものか。この難しい病気を。それは不可能ではないかと一瞬思われる。しかし次の一瞬この人にかける思いが起って来た。行ってみよう、願ってみよう。

しかし人々の目の前に立つことは恥かしい、それ以上にけがれた女として人々により制止されてしまうだろう。

しかし彼女は勇気をふりしぼり外に出た。深々とベールを被って。そして先頭に行くイエスの後ろに押し迫ってついて行く大勢の群衆の最後尾につき、それから少しずつ少しずつイエスへの接近を試みた。そして遂にイエスの真後ろに達した。そこにイエスの大きな背。このイエスに向って、その服に向けて細い手を伸べそっと触れた。この時奇蹟は起った。イエスの内から電流のように力が出て行き彼女は瞬間的にいやされた。

イエスは振り返ってこの女を見出し「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい」と声をかけた。イエスにとって困窮の中にある女は娘同然であった。それは愛すべき、いとおしい大事な大事な娘。今日もイエスは私達に向けて娘よ、あるいは息子よ、私のかけがえのない子ども達よ、と呼びかけ大きな力を与えようとしている。イエスは私達一人一人の親になりたがっている。

## 集会案内

主日礼拝：毎日曜日	午前10時15分
こどもの教会：毎日曜日	午前9時
祈祷会：第4日曜日	礼拝後
婦人会・壮年会：第2日曜日	礼拝後
聖書を学ぶ集い：第4水曜日	午前10時
オリーブの会：第3月曜日	午前10時
(読書会を中心に身近な問題を話し合っています。)	